



窓報 千南原

第14号

平成2年6月5日発行
編集・発行
藤枝市天王町1丁目7-1
静岡県立藤枝東高等学校
同窓会事務局

生活館建設募金始まる

一万六千名の同窓生の力の結集を



同窓会長 伊村隆恵

瀬戸川べりの名所金比羅山の桜もはや散り、山々も新緑に色どられ快い初夏のきざしが感じられる季節となりました。

平成元年度の卒業式もこの三月一日に行われ、多くの父母の見守る中でめでたく三百七十八名が門出をしました。本年は特に国立大学の進学合格率も高く、二百三十有余名と、その実績は県下五本の指から3本の指に入る躍進でした。このように進学率の高い名門校としての面目を維持しているのは、歴代の校長先生を初め全職員の先生方の旺盛な教育意欲の賜と考え深く感謝すると共に、このすばらしい実績を維持し、より発展させることを願うものであります。

さて母校の近況と懇願の筋につきましてご説明します。昨年の夏休み不審火に依り卓球部室(旧生徒控室)が全焼し、裏側の同窓会館もともに火を受けて多大なる損害を蒙りました。それと同時に生徒合宿所も使用禁止となりました。この合宿所は志太中創設当初の第一棟の玄関を中心に一部を移転し改造した建物であり、老朽化の上修理に修理を重ねて使用しており、もはや限界という状態のなかで、火災事故の煽りをくったのでした。

この合宿所には長い歴史があり、三冠王を達成したサッカー部を始め各文化部や体育クラブの敷え切れない程の多くの部員がこの宿舎に寝起きし、錬磨し

青春の汗を流した建物でした。が、今回の事故により万が一にも大火事故が発生したならという懸念から、止むなく先般取り壊し撤去した次第です。

しかしながら各クラブは休むことなく合宿練習訓練を続行しており、目下はやむを得ず同窓会館を解放し、一階に仮置を敷き二階を含めて全館を使用するようにしています。しかし、合宿するクラブが重なるなど、校舎の教室まで使用せざるを得ないという、誠に気の毒にも不便を我慢しながら、生徒たちは練習に精進しているのが現状です。

このような現状を見るに忍びず、昨年の秋頃より山口学校後援会長を中心に協議を重ね、在校生のために何とか施設の再建をすべく検討を始めた。と同時に近隣の高校の施設の状況をも調べた結果、焼津中央高校や島田高校は既に完成、もちろん西高にもあり、北高も計画がほぼ煮詰まり間もなく着工予定、また他校も完成したところが多く、その何れも近代的な施設であった。その予算も一億五千万から二億五千万という巨額を要してこれを完成、あるいは予定している。

このように生徒の置かれた厳しい状態や、近隣の高校の現状を考慮し、慎重に協議の結果、別頁の設計画に基づき取り組むことを決定いたしました。

しかしながら決定はしたものの、ここに一大難関の障壁につきあたったのです。それは県教育委員会の指導もあり、また当然のことでもありますが、施設の寄附を父母に求めることが出来ないことです。だからとい

て建設をすべき県では、これまで生活館には予算を付けてはいません。ここに至っては、やむを得ず同窓会が中心となり、目的達成のために最大限の努力をするしか方法がないということとなり、全役員により建設協力を決議したのです。これにより、一万六千名の同窓生に趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いして応分のご寄附を懇請することに相成りました次第です。

繰り返した次第ですが、同窓会館を使用しているといつても使用目的の異なる施設であるた



ごあいさつ

学校長 今泉龍雄

同窓会々員の皆様には全国各地、各界に於いて益々ご健勝にご活躍のこととお慶び申しあげます。日頃、皆様方には母校のために何かと暖かいご高配をいただき、特にこの度は「生活館建設計画」につきまして、格別のご厚情・ご支援を賜わり、誠にありがとうございます。お陰をもちまして、本校も創立以来六十六年を経過し同窓生も一万六千余人を数える県下の中心校として発展を遂げてまいりました。今年度の大学入試状況も、国立大学合格者数は県下ベスト3の成績を収め、私大合格者も、例えば私大の雄早稲田大学へ現役二名、浪人二名、計三五名が合格するなど、生徒諸君は目まぐるしく変わる大学入試制度にもよく対応し、立派な成果をあげてくれました。

本校は、今年四月の新入生を迎え、全校生徒数全日制一二六七名、定時制一三三名、合計一四〇〇名を数える、本校歴史始まって以来の大規模校となりました。恐らく現在がピークとは思いますが、こうした量の拡大が、質の低下を招かぬよう本校教育の一層の推進を図りたいと考えています。本校の伝統である文武両道の精神を堅持して、放課後の特別教育活動にも力を尽して、決して受験勉強のために人間性をスポイルさせないことのない人材の育成に努めてまいります。

世界は国際化時代に入り、その中であって、我が国は飛躍的な経済発展を遂げました。しかしこの物質的な豊かさは、物と金とに心を奪われ、精神の貧しさを生んでいるのも事実であります。

私は、人間が人間らしく生きることは、人間の英知によつて限りない物欲と邪念を抑制し、人間と物、人間と人間、人間と自然との調和のとれた生涯を過ごすことであろうと思っております。本校建学の精神である「至誠一貫」の「誠」を第一義として、人間にとって真の豊かさとは何かを追求して、この豊かさの中で新しい文化を創造し、地球の繁栄と世界の平和に貢献できる生徒の育成を目指したいのであります。

豊かな知性とみずみずしい感性とあたたかい徳性を培い、諸先輩の皆様方が築いてこられた質の高い本校教育の一層の発展のために全力を傾けてまいりたいと存じます。皆様方の変らぬご教示、ご叱正、ご鞭撻をお願い申し上げます。

長い間懸案となっていた、副会長の増員の件について十一月十一日に開催された同窓会役員総会で新役員が承認されました。これまでの役員は志太中時代の方が多かったが、これからは東校時代の若い人達に意欲的に活動してもらおうという会長を始め、役員のお考えが実現したものです。特に昨年からの今年にかけて母校の生活館の建設基金の募集という一大事業が始まったので、この若い人達の加入は大きな戦力になることと思っております。また、同窓会の活動を活性化

め合宿のための基本設備はなく、御父兄の協力を得て何とか合宿をされている有様です。在校生のために同窓生の深いご理解を得て、出来れば今年秋には工事に着手し、明春早々に完成し、生徒が使うことができるようにしている次第です。これが達成のためには一万六千名の同窓生の個々の力の結集が頼りであり、何卒積極的なご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

役員名簿
本部長 伊村隆恵
副会長 宮崎啓一
監事 伊藤進一
相談 伊藤進一
事務 伊藤進一

182712 3 4543343432302726282617151512 9 6
回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回

同窓会副会長の増員を決定 若い世代への引き継ぎを図る

し、様々な企画を行って、こうという意見も出ているので、いざいざ同窓会役員一同に会すると、この機会をもつてご協力を得よう。これに加えて同窓会の役員も補充したので報告しておきます。初めましての試みとして第一面に紹介しましたように、後援会との共催で、来る六月二三日に藤枝市民会館で文化講演会を行います。多くの同窓生に御出席いただきたいと思います。

藤枝東高等学校後援会・同窓会主催
文化講演会のご案内
日時 平成2年6月23日
14時より17時まで
会場 藤枝市民会館
内容 (1) あいさつ (2) 東高の音楽部演奏 (3) 講演会 岡村新太郎氏 (日本鋼管監督 40回卒)

講師紹介 岡村氏は藤枝生まれの藤枝育ちで東高在学中にサッカー三冠王に輝く。法政大学卒業後日本鋼管に入社、3年間の選手生活の後、同部のコーチとして3年間を過ごす。その後、日本サッカー協会強化委員として日本代表チームのコーチや日本ユース代表チームの監督として8年間指導に携わる。昨年6月より、NKK(日本鋼管)チームの監督に就任し現在に至る。氏は「私のサッカーの原点は藤枝であります。この東高時代が私のサッカー人生で最も影響を受け、自信をつけた時でした。この懐かしいグラウンドは、初心に戻り、新たな闘志がわいて来る源泉です。」と語っています。講演会が楽しみです。

平成元年度同窓会基金特別会計の決算

昭和52年2月に同窓会臨時総会で決議され、5ヶ年計画で進められた基金も各位のご理解とご協力により2,052万7千円に達しました。この基金の利息を運用して、母校の部活動の振興に役立させていたしております。紙面をかりて御礼申し上げます。

◎ 基金総額	20,527,000円
歳入	4,325,725円
歳出	4,325,725円
繰上	4,516,648円
繰下	3,911,882円
繰越	604,766円
繰上	3,625,725円
繰下	890,923円
繰越	4,516,648円
歳入	200,000円
歳出	30,000円
繰上	10,000円
繰下	3,671,882円
繰越	3,500,000円
繰上	171,882円
繰下	3,911,882円
繰越	3,911,882円

尚、この決算書は6月23日の役員総会に提出するもので、まだ承認されていませんが、基金の利息がどのように使われているかをご確認ください。

事務局だより

同窓生の皆さんいかがお過ごしでしょうか。学校は千南祭(文化祭)を間近に控え、活気に満ちています。時代の流れは変わっても、こころはいつも若い生徒達が生み出す新鮮な時間と空間があります。ふと、過ぎ去ってしまった時が甦ることがあります。

生活館の建設基金に、ご協力いただいた同窓生の皆さん、深く感謝いたします。今回、ご協力をいただいた方だけ別に仕分ける時間的な余裕がありませんでしたので、同窓生全員に振り込み用紙を同封いたしました。ご了承下さい。

合宿所がないというの、不便なものです。住所変更や問い合わせ等が絡下さい。同窓会事務局 係 篠宮